



## チタンファイファイ(CL4) & アブミプレート(CL14)



-DATA- アブミプレート  
ジュラルミン製  
カラー:シルバー 重量:35g  
価格:864円(税込)

-DATA- チタンファイファイ  
チタン製/カラー:シルバー  
厚さ:3mm 引っ張り強度:500kg 重量:20g  
価格:1,512円(税込)

当社の商品はすべて **Made in Japan** 表示をしています。

〒334-0062 埼玉県川口市榛松 699

TEL 048 (281) 1322 FAX 048 (286) 0866

<http://www.exp-japan.jp> e-mail: [exp.offjapan@gmail.com](mailto:exp.offjapan@gmail.com)



平地は桜の季節も過ぎ、初夏を迎えます。ただ高山エリアはまだまだ残雪に覆われた雪山の名残に包まれています。こんな季節の変わり目には軽アイゼンが大活躍します！！

## <定番・軽アイゼンシリーズ>

### クロモリ 4P set(ST4) 写真)左

材質:クロモリ鋼製。カラー:黒色電着塗装。  
サイズ:43mm×70mm。爪高:15mm。重量:135g。  
税込価格:¥2,948(本体価格¥2,730)



### クロモリ5Pset(ST29) 写真)右

材質:クロモリ鋼製。カラー:黒色電着塗装。  
サイズ:50mm×70mm。爪高:31mm。重量:185g。  
価格:¥3,402(本体価格¥3,150)



- 最大のセールスポイントは本格的アイゼン(8P~14P)と同じ製造過程で造られたことです。材質もクロモリ鋼製。焼入れ塗装も先端技術で処理した自慢の商品です。
- ベルト通し用の左、右のリングがないのも特長です。固定バンドはフレームにつける構造です。リングがないから小さな靴から大きな靴までジャストフィットします。固定バンドが傷みやすいのではと危惧する声もありますが、トラブルはありません。
- ユーザーの安全登山のために開発された4P、5Pです。すべてのハイカーの安全登山のお役に立つのが、エキスパートの願いです。

## SP(超)リトルベアーⅡシリーズ

### リトルベアーⅡの特長

- 世界で初めて研究開発された6本爪軽アイゼン。トレッキングシューズを含む、あらゆる靴にジャストフィットします。アイゼン爪角度の発明特許商品。
- 最高級の世界で唯一のクロモリ鋼製。日本が誇る先端技術の焼入れ、塗装をほどこした自慢の商品。世界最軽量。コンパクトサイズ。着脱時間はワンタッチアイゼンに劣らず。装着感も勝れる秀作です。

### エコですニッポン

#### SP(超)ショートリトルベアーⅡ set(ST34)

材質:クロモリ鋼製。カラー:黒色電着塗装。  
-DATA-  
サイズ/168 mm×110 mm 爪高 20 mm 重量/505g  
税込価格/¥8,532(本体価格¥7,900)



### 歴史のニッポン

#### SP(超)リトルベアーⅡ set(ST31)

材質:クロモリ鋼製。カラー:黒色電着塗装。  
-DATA-  
サイズ:168 mm×110 mm 爪高:31 mm 重量:505g  
税込価格:¥9,666(本体価格¥8,950)



靴の上に乗せ、靴とアイゼンがぴったり合ったところで、付属のレンチで2本のボルトを締めつけば、ボルトを外さずにサイズ調整が完了するスライド式新型6本爪軽アイゼン。微調整可

## 愛するニッポン

### ベルシリーズ

- シンプルな造り、愛らしい鈴音。好みの大きさを選べる熊鈴です。
- 吊り紐のステンレスワイヤーが振り子(ハンマー)を固定します。ワイヤーの弾力で歩くごとに鈴音が大きく響きます。ワイヤーは肌にやさしいナイロンコーティング加工をしています。
- 簡単に脱着ができる消音板付き。消音板をつけると鈴音が響きません。



#### ビッグベル (C18)

真鍮製 カラー:ゴールド  
高さ:45 mm 直径:45 mm  
重量:85g  
1.5 mmφステンレスワイヤー  
吊り 消音板つき  
税込価格:¥3,564

#### 0'(ゼロ)ベル (C11)

真鍮製 カラー:ゴールド  
高さ:39 mm 直径:40 mm  
重量:65g  
1.5 mmφステンレスワイヤー  
吊り 消音板つき  
税込価格:¥2,268

#### プチベル (C17)

真鍮製 カラー:ゴールド  
高さ:27 mm 直径:29 mm  
重量:30g  
1.5 mmφステンレスワイヤー  
吊り 消音板つき  
税込価格:¥2,052

#### ミニベル (C16)

真鍮製 カラー:ゴールド  
高さ:14 mm 直径:16 mm  
重量:10g  
1.5 mmφステンレスワイヤー  
吊り 消音板なし  
税込価格:¥1,253

<振り子の原理>

ベルはハンマーの重さと振り半径に比例して大きく響きます。



#### ◆アブミプレート(CL14)

両端のロープ通し穴はハトメ内径7.5mm穴。  
7mmロープも通せます。

災害時の脱出用ロープ梯子としても利用できます。

- DATA -

材質:ジュラルミン製 カラー:シルバー

サイズ:172mm×20mm×10mm 重量:35g

ロープ用。滑り止めつき。

税込価格:¥864 (本体価格¥800)



#### ◆アルミランナー(C1) 10 個入

アルミ製カラー:シルバー重量:1.5g

穴径:7 mmφ ロープ有効径:3 mmφ~6 mmφ

税込価格:¥658(本体価格¥610)



#### ◆スーパーランナー(C2) 10 個入

ジュラルミン(A5052)製カラー:シルバー

重量:3g 穴径:7 mmφ

ロープ有効径:3 mmφ~6 mmφ ロック可能

税込価格:¥831(本体価格¥770)



※取扱方法はパッケージに印刷してあります。



新年度4月1日(土)雨の日となる。気温も下がり冬の服装に逆戻りする。関東甲信越の山沿いは雪との天気予報。翌日に日帰り登山を考えていたので、雪道を歩きたい私としては喜ばしい。雪が少しでも積もっているといいなあと、軽アイゼン、ステッキを準備。今回は数ヶ月ぶりに夫も同行するという。「リハビリ登山だね。」と夫が言うので、歩行時間短めの山を探す。奥多摩、丹沢、山梨、奥秩父の地図を広げ吟味した結果、秩父鉄道「三峯口」から歩いて登れる秩父御岳山に決める(他にも登山コースあり)。地図上では5時間歩かないコース。久々の秩父の山。準備していたら夜中12時を回ってしまう。急いで就寝。

4/2(日) 6時10分自宅を出発。

信号待ちをしていると旦那が、財布を忘れたことに気づく。走って戻る。

6時25分 武蔵新田駅出発。

池袋駅に出て、西武池袋線に乗り換える。今まで山に向かう為に都心を経由することがなかったので変な気分である。

7時30分

西武秩父行き特急列車、レッドアロー号に乗車(利用の際は、乗車券の他に特急券が必要)ちょっと旅行気分が味わえる。

8時51分 西部秩父駅に下車。特急券のみ回収される。

8時57分 西武秩父線三峯口駅行に乗車。

9時17分 三峯口駅に下車。

ICカードにての清算ができないので現金払いとなる。ICカードの処理は帰りに清算してくださいと証明書をもらう。数人の方が降りたが、ほとんどが三峯神社に向かうバス停に並んでいる。

9時25分 出発。

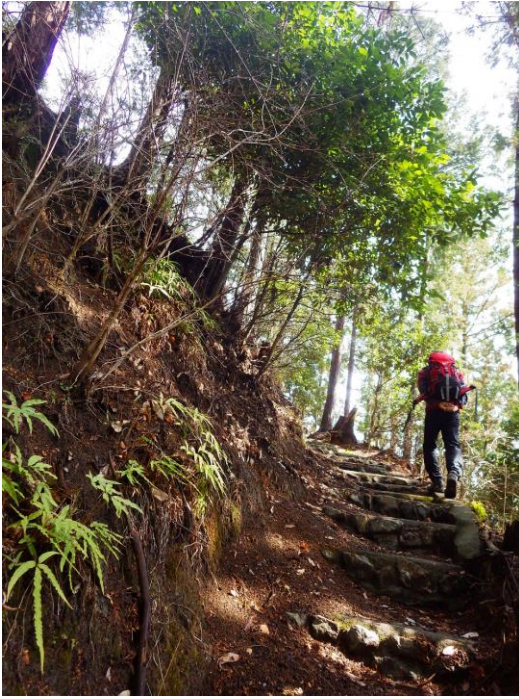
改札を出て右手に進みしばらく道路沿い歩く。白川橋を渡り、140号線という大きな道路に出たら右に曲がる。少し行くとかかしの里という分岐が現れ、かかしの里の方へ進む。たくさんのかかしがあちこちに展示?されている。昼見てもちょっと恐い。夜見るとさらに不気味に感じるのではなからうか?



御岳山の標識と共にクマ出没注意の看板も現れる。「クマ鈴持ってきてよかったね」というと「え?持ってきてないよ」と夫が返答。家を出る前にちりんちりん鳴らしていたクマ鈴は出窓に置いてきてしまった。他人任せはいけません。カギに付けていた小さな鈴を鳴らすことになる。E0Jのミニベルを今後はカギに付けておこう。





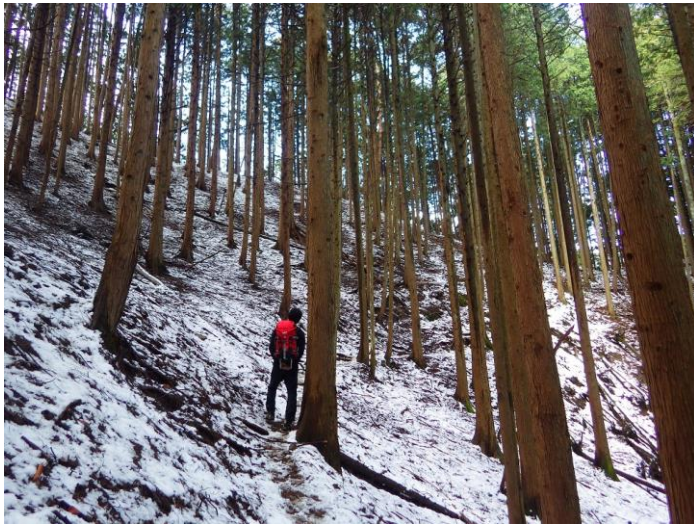


(二番高岩、絶景が楽しめます)

(登り始めは石の階段から始まります)

道路沿いから山道に入る。奇形の墓と称されたお墓を通りすぎる。明るい林道で、登りもゆるやかである。途中「一番高岩」「二番高岩」「三番高岩」と景色を楽しむポイントがある。

しばらく歩くと積雪が現れる。やはり数日の雨は山では雪だったようである。軽アイゼンを付けなくても歩けそうな雪質だったので、そのまま進む。



(分岐手前の斜面。ここを登りきると分岐地点となる)

11時10分 猪狩山(鞍掛山)との分岐点到着。

思ったより早い到着に驚き小休憩。気持ちの良いコースである。こちら辺から雪の量も増えてくる。急な斜面も出てくるが、雪の量的にキックステップができないので、ステッキがあると進みやすいであろう。夫も数回滑っていた。

11時48分 強石との分岐点通過。

案内版があり「大規模な山崩れが発生したことから落合コースは閉鎖となっています。大変危険ですのでコース内には絶対立ち入らないで下さい」と崩壊地点に○印が付いている。しかしながら、この案内板がいつから設置されているのかが不明である。





(黒○の部分崩壊地)



(山頂手前、強石との分岐)

11時50分 標高 1080.5m 秩父御岳山山頂到着。

祠、鐘、賽銭箱が祀られている。5人ぐらいであろうか、狭い山頂なので賑わっている。雲が多かったが大パノラマが広がる最高の山頂である。



(山頂手前の登り)



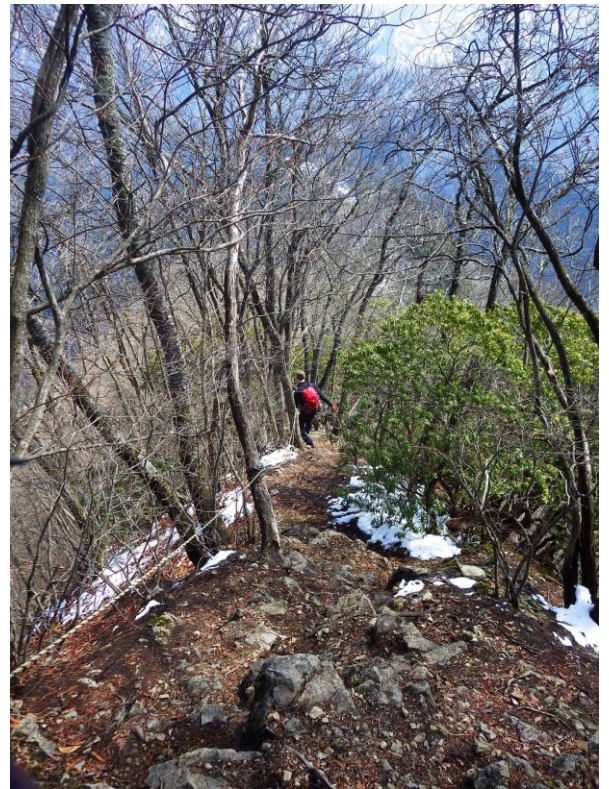
しばらく山頂の景色を楽しんだ後、うしろから来られた登山者に山頂を譲り少し下がった場所で昼食を摂る。今回もしっかりバーナー持参。温かいラーメンを堪能し体を温める。

山頂が空いたところを見計らって再び山頂に。二人の登山者が出発の準備をしている。「静かな山ですね」と話しかけると「先週も来ましたが、静かでしたよ。先週は全く雪がなかったんですけどね」との返事。二人の方は、一部崩壊している落合コースで下山するとのこと。雪のない時期に通ったことがあり、迂回する道があるとのこと。「気を付けて下山してください」とご挨拶。

12時40分 山頂出発。

強石との分岐まで戻る。強石から急斜面をくだる箇所がいくつかある。途中、ロープが張られているところや雪と土でぬかるんでいるところもあり、転倒に注意。





(↑ 強石分岐からの斜面  
ロープが張られた痩せ尾根 →)

一度林道を横切り、再び森の中へ。

13時35分 杉ノ峠着。

樹林帯をひたすら下る。途中、綺麗な白い花が咲いた低木が密集している。不思議なことに上から見ると白いのだが下から花をのぞき込むと黄色い花が咲いている。何という木なのであろうか。

樹林帯を抜け林道にでる。ここから強石のバス停まで、道路沿いを進まずショートカットで降りる。一見、他人の庭を通過しているのではないかと思うが、標識が出ているので通過していいようである。

14時10分 強石バス停着。

バスの待ち時間が長いようであれば三峯口駅まで歩こうかと考えていたが、14時32分に来るようである。まだ時間に余裕があったので、次のバス停「荒川局前」まで歩く。

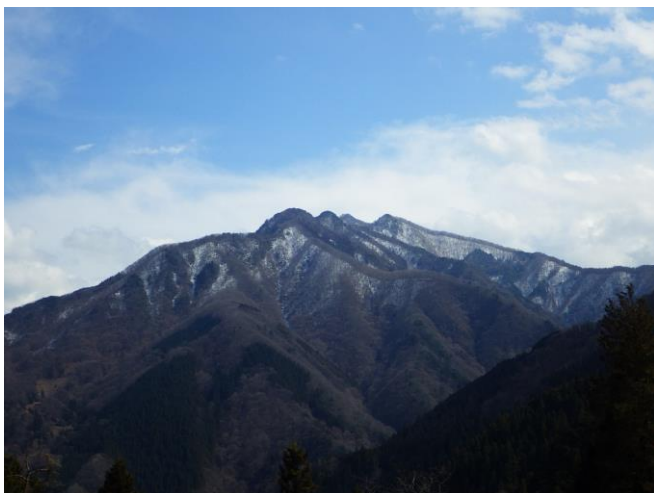
14時33分 荒川局前バス停から三峯口駅までバスで向かう。

乗っているのは我々二人のみである。三峯口駅着。帰りの電車の発車まで40分近く時間に余裕があるので近くの茶屋で缶ビール購入。お店の方がキノコの天ぷらをサービスしてくれる。ご馳走様！登山後のビールに天ぷら、豪華である。おいしい！！

天气に恵まれ残雪の山も楽しめた一日。

この時期、低山とはいえ軽アイゼンが必要な場合もあります。情報はしっかり収集し楽しい登山をしてください。

さて、今回山頂から見たカッコいい山「和名倉山」いつか登りに行こう！！



9時25分 三峰口駅発  
11時10分 猪狩山(鞍掛山)分岐点着  
11時50分 秩父御岳山着  
12時40分 秩父御岳山発  
13時35分 杉ノ峠着  
14時10分 強石バス停着

文責:松田留美 同行者:松田次郎

(←樹林帯を抜けて林道から見た和名倉山)

## 【重要】価格改定のお知らせ

別途ご案内でもお伝えしていますが、2017年5月1日より諸材料(特にアルミ・テープ関連)の高騰につき下記商品のみ価格を変更させて頂いております。

ご注文を受ける際は、お間違いの無いようご注意ください。

2017年4月28日(金)までのご注文分は変更前の価格で出荷させていただきます。

品番	商品名	新価格(税抜き)
SN3	スノーシューズ M	12,450 円
SN4	スノーシューズ L	12,700 円
SN17	スノーシューズ M(F)	12,100 円
SN18	スノーシューズ L(F)	12,450 円



## 【重要】パーツ関連 発注単位変更のお知らせ

前回のコレクションでもお伝えしていますが、再度ご案内いたします。2017年4月1日以降よりパーツ関連の発注単位が変更となっております。下記の商品が対象商品となりますので、ご注文の際はご注意ください。

発注単位:6点

対象:2017年4月1日より出荷のパーツ(上代価格 1000 円(税抜)以下)全て対象となっております。

※エキスパートオブジャパンでは一般ユーザーのお客様から直接の修理受付やパーツ販売も対応しています。店頭での対応が難しい場合は当社への直接問い合わせをお客様にお勧めください。

<問い合わせ先>

株式会社エキスパートオブジャパン TEL:048-281-1322 FAX:048-286-0866

e-mail:exp.offjapan@gmail.com

<対象商品>

◆スノーシューズ バンド関連パーツ (リングテープ、センターベルト、フロントバンド)

◆メタル関連パーツ

※判別が分からないパーツは一度お問い合わせください。

発注単位は 6 点となります。1点からの出荷はお受けできません。

カタログは単価表記となりますので、発注単位での金額は単価×6点で計算して下さい。

※「Made in Japan の現場より写真レポート」今号はお休みとさせていただきます

文責:松田次郎